

ACC023-P01

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

モンゴル・アルタイPotanin氷河の質量収支と気候条件 II

Mass balance and climatic condition of Potanin glacier, Mongolia Altai II

紺屋 恵子^{1*}, 門田勤¹, 中澤文男², 矢吹裕伯¹, 大畑哲夫¹

Keiko Konya^{1*}, Tsutomu Kadota¹, Fumio Nakazawa², Hironori Yabuki¹, Tetsuo Ohata¹

¹海洋研究開発機構, ²国立極地研究所

¹JAMSTEC, ²NIPR

モンゴル西部のPotanin氷河は後退していることが分かっているが、この氷河周辺での現地観測はこれまでなく、気象データも乏しい。

著者らはこの氷河の質量収支について、消耗域での年間表面高さ変化の観測を行った。また涵養域では花粉を指標とし涵養息での年間質量収支を見積もった。その結果、消耗域では夏季融解量が多く、涵養域でも融解と考えられる現象はあるものの冬季の涵養がみられた。これらをもとに氷河全域の年間質量収支を見積もった。

その結果、2007/08年は非常にネガティブな質量収支年だったと推定できた。この結果をロシアアルタイの氷河と比較しても、同様の傾向が見られた。

アルタイの氷河の質量収支は世界の氷河とは異なる傾向を示している。アルタイ山脈周辺では近年数十年にわたり急速な温暖化が見られるが、降水量には大きな変動が見られないことから、降水としての雨・雪の違いが影響していると考えられる。

キーワード:氷河,質量収支,アルタイ,モンゴル,花粉分析,温暖化

Keywords: glacier, mass balance, Altai, Mongolia, pollen analysis, warming